



# 心の時代



## 2月号

大学受験生の壮行会が今年も共通テスト前に行われました。毎年、お伝えすることがあります。「受験が出来る」ことに感謝をしようということです。当たり前のように受験が出来るのではないということです。昨年正月に能登半島地震がありました。八年前には熊本で大地震があり熊本城が崩壊しました。十三年前には東日本大震災がありました。三十年前には阪神淡路大震災がありました。先日、宮崎でも地震があり、南海トラフかと報道される一コマもありました。住民の皆さんの中には当然受験生もいるわけです。そうです「受験が出来る」ことはあたり前のことではないのです。

私は毎年湯島天神に合格祈願に出かけます。その際に必ず思うことがあります。「無事試験が受けられますように」「今持っている力が出し切れた良い受験が出来ますように」ということです。受かってほしいという気持ちは確かにありますが、それよりも先に受験が予定通りできることの難しさが今の日本にはあるのです。

受験生には「受験が出来ることを感謝」し、保護者様に「受験に行かせていただきます。ありがとうございます」受験が終わり帰宅したら「受験を無事終えることが出来ました。ありがとうございます」と告げることを伝えています。その気持ちこそが受験の原点なのです。何かするときは自分一人の力ではできないのです。保護者様がいて初めて受験が出来ます。志学ゼミでは受験にかかる費用、入学金、授業料を受験生が自ら調べて一覧表を作ることを勧めています。よく保護者様にさせる諸君もいましたが、自分ですることで「こんなに費用がかかるのか」ということが改めてわかるのです。また、交通機関が正常に動くように動かれている皆さん、試験会場で警備される方、試験監督の皆さん等、皆さん之力で試験会場に立てているのです。みんなの力がつながって自分がいるのです。

受験期は非常に純粋になれるいい時期です。人の話が素直に聴けるいい時期です。そこに感謝の気持ちがでてくると謙虚になれます。

今、マスコミ等で災害を風化させないために震災当日の話が語り継がれています。神戸の震災の行事が1月17日になったという話を聴きました。灯籠には「共に寄り添う」というメッセージが添えられたとのことです。各地で起こった震災に震災経験者自ら寄り添っていくという祈りがささげられました。今、被災されている皆さんに寄り添うボランティア元年がこの震災から始まったと言われます。各自、自分で着ることを考え行動し始めました。自分が大変だったことを知っているからこそ動こうと思うのでしょうかね。もう三十年前になるんですね。今の二十代の人は知らない方も増えていると聞きました。災害があると、私たちはその都度思い出します。しかしながら日常では忘れがちです。日常の忙しい生活に追われているからです。

しかし、私達はこういった出来事を伝えなければなりませんし、生かされている命に感謝をしなければなりません。生きている私たちは、私たちが出来ることをしなければなりません。東日本大震災の時、何が出来るのだろうかと考えました。長野県浄光寺の和尚様が被災地を支援するために一枚のはがき「笑顔」を作られました。はがきの値段で購入できます。和尚様の持ち出しで作られた気持ちのはがきでした。売り上げは全て被災地に贈られるということを知りました。私は葉書を購入して配ることはできると思いました。それから十三年目に入りますが皆様の面接の時に配布をさせていただいています。私にできるささやかなことですが今後も続けていきたいと考えています。今和尚様は笑顔プロジェクト広げ、重機を扱う人を育て能登の震災にも駆け付けられています。そういった大人もいるのです。

共通テストは18日、19日に始まります。試験会場に立てることを感謝して、受験がスタートします。受験生に再度「笑顔」のはがきを手渡しました。

2025年2月